

教科	体育
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 主体的な学びに向けて 運動の楽しさや健康の意義等に気づき、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする。</p> <p>(2) 対話的な学びに向けて 運動や健康についての課題の解決に向けて、児童が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりする。（課題の解決を目指して、協働的な学習に取り組む。）</p> <p>(3) 深い学びに向けて (1) や (2) の学びの過程を通して、自己の運動や健康についての課題を見付け、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する。</p> <p>(4) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進 以下の学習が展開される中で、着実な習得を促す学習が展開され、主体的・能動的な活用・探究の学習を展開することができると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 指導方法を工夫して必要な知識及び技能の習得を図る。 ○ 子どもたちの思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりする。 ○ 学びに必要な指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していく。 	

教科	保健体育
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>次の視点等を踏まえて授業改善を行うことにより、育成を目指す資質・能力を育んだり、体育や保健体育の見方・考え方を更に豊かなものにしたりすることにつなげることが大切である。</p> <p>(1) 主体的な学びに向けて 運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、学習を振り返るとともにそれを考察し、課題を修正したり新たな課題を設定したりする。</p> <p>(2) 対話的な学びに向けて 運動や健康についての課題の解決に向けて、生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深め、課題の解決を目指して学習に取り組む。</p> <p>(3) 深い学びに向けて 習得・活用・探究という学びの過程を通して、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する。</p> <p>※ これら三つの学びの過程をそれぞれ独立して取り上げるのではなく、相互に関連を図り、保健体育科で求められる学びを一層充実することが重要である。また、これら三つの学びの過程は、順序性や階層性を示すものではないことにも留意する。</p> <p>(4) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の思考を深めるための発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を探究し、生徒の学習状況を捉えて指導を改善していく。 ② 指導事項の精選を図ったり、運動のポイントを明確にしたり、ICTを効果的に活用したりするなどして、体を動かす機会を適切に確保する。 	



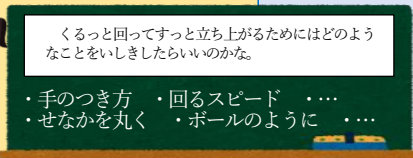
「深い学び」を具現する授業デザイン 体育

学習指導要領における領域・内容

小学校 [第3・4学年] B 器械運動 ア マット運動

本時のねらい

基本的な前転・後転の映像を見ながら動きを確認することを通して、自己の課題に合う練習方法を選ぶことができる。

授業デザイン例	学習者の視点	授業者の視点
<p>導入で、うまく回っている演技と、うまく回ることができない演技の動画を見せ、うまく回るためにはどのような工夫をすればよいのか子どもたちに問いかける。</p>		
<p><1回目></p>  <p>きれいに回っているね。</p>	<p>くるっと回っているよね。</p> <p>私はずっと立ち上がることができないんだよな。</p>	<p>どのようなことを意識すれば、手本のようにくるっと回って、すっと立ち上がることができるのだろうね。</p> <p>もう一度映像を見て気付いたことを話し合ってみよう。</p>
<p>くるっと回っている人は、スピードがあったけど、回れていない人は動きが遅かったよね。</p>	<p><2回目></p>  <p>Aくん</p>	<p>手の着き方が違ったよね。</p>  <p>自分の課題に合う練習方法を選んで手本のように滑らかな回り方を目指して練習してみよう。</p>
<p>床を押すとき、どっちかが弱いんじゃない？</p> <p>そうだね、左手の方が弱いから左に曲がっていくのかもしれないね。</p>	<p>ぼくは曲がってしまうから線が引いてあるマットで練習しようかな。</p> <p>本当だ、左手の方がぐっと押せてないね。もう1回見て。</p>	<p>タブレットで動画をお互いに撮りながら、自分達の回り方を確認してアドバイスしてみよう。</p> <p><練習の例> 両手のひら全体を床に着き、床を押し返すことを意識させる手型と、まっすぐ回る目安のライン</p>
<p>手の着き方が上手になってきてまっすぐ回っているね。別の練習場所に移動してもいいんじゃないかな？</p>	<p>両手をべたっと着いて、左右同じ力でぐっと床を押すことを意識したらまっすぐ回れたよ。</p>	<p>手をべたっと着いてぐっと押しているいいね。</p> <p>視点U</p>
<p>次は、□□にチャレンジしたいな。</p>	<p>両手をべたっと着いて、左右同じ力でぐっと床を押すことを意識したらまっすぐ回れたよ。</p>	<p>いろいろな工夫をして練習をしていましたね。どんなところを意識するといいいのでしょうか？友達のよかったところも含めて、うまく回るコツをまとめてみましょう。</p> <p>視点⑫</p>

本時における「深い学び」を具現する仕掛けや発問

- タブレットを使って動画を撮影しながら課題を改善する活動に取り組ませる。このことにより、自分の課題について視覚化でき、自分の課題改善の意識を高めるとともに、児童同士の話し合いも視点を絞って行うことができる。さらに、授業者が児童一人一人の達成状況を見取り、個人内評価を意識した言葉かけを積極的に行う。これにより意欲を引き出すとともに、技の完成度を上げるための具体的なポイントが明確になり、児童の思考の深まりが期待できる。(視点U→視点⑫)